林業協業経営のあり方についての調査研究

技　師　谷　村　武　雄
技　師　海　沼　武　一

1　ま　え　が　き

最近、協業による経営の必要性が、労力不足や施設、設備の効率的な利用の面から高まっているが、林業関係の場合は成功例が非常に少ないといわれている。そこで、協業化推進上、どのような場合に林業協業経営が成功するのかを明らかにするため、県内の協業体の中から優良事例を選んで調査を行なったので、その結果を報告する。

2　方　　　法

県内の林業協業体約80（施設森林組合を除く）の中から、比較的すぐれた経営を行なっている４事例を選び、作業のやり方や組織等について調査した。調査事例の内訳は表—１のとおりである。

表—１　調査事例

部門	市町村	名称	構成員	規模
育苗	花巻市	Y 共同苗畑	3人	苗畑３ha余
育林	川崎村	K 生産森林組合	411人	山林 345ha余
特産	東和町	Nシイタケ生産組合	4人	伏込榾木25,000本
製炭	前沢町	S 木炭生産組合	6人	炭窯３基

3　結果と考察

優良事例調査の結果は表—２のとおりで、これらの長所を取りまとめてみると次のことが考えられる。

すなわち、林業協業経営を成功させるために留意すべき点として、

⑴　**作業**：作業場や施設、設備を１か所に集めて、作業を効率的に行なう必要がある。

⑵　**出役**：出役した人には、それ相当の賃金を用意して早く与え、構成員の出役の意欲をそがないようにすることが大切である。

⑶　**利益**：協業の種類は、利益が出やすいものに限定するのが好ましい。

⑷　**資金**：借入金が多いと、利息に追われて経営が苦しくなりがちなので、協業者の自己資金で実施

できる程度のものが成功しそうである。

(5) **組織**：作業を能率的に行なうために企画係・資材調達係・技術係・販売係・会計係等、徹底した責任分担制を取るのが好ましい。

(6) **技術**：協業のように人が集まる経営は統率が取れにくくなるので、特に技術にたんのうなリーダーが１人以上は必要である。

(7) **意欲**：協業の構成員達の［やる気］が最も大切なようで、上から押しつけられたものよりも、自主的に作られた協業体の方が成功しそうである。したがって、個々が自主的に協業に対し、意欲を持てるような指導がたいせつである。

表―2　調査結果

部門	育苗		育林		特産		製炭	
協業体	Y 共同苗畑		K 生産森林組合		Nシイタケ生産組合		S 木炭生産組合	
作業場数	１か所	(+)	１団地	(+)	２か所	やや(+)	１か所	(+)
出役	有償 年度内支払	(+)	有償 即日支払	(+)	有償 年度内支払	(+)	有償 年度内支払	(+)
利益	黒字 約74千円/年	(+)	黒字 約19千円/年	(+)	黒字 約17千円/年	(+)	黒字 約244千円/年	(+)
資金	借入金主体	(−)	借入金主体	(−)	借入金主体	(−)	自己資金主体	(+)
組織	責任分担 技術、資材調達、会計、各係	(+)	責任分担 理事、監事、業務、事務、各係	(+)	責任分担 運営、会計、渉外、作業、各係	(+)	責任分担 統括、資材調達、事務、会計、各係	(+)
技術	たんのうなリーダー　１人	(+)	たんのうなリーダー　２人	(+)	たんのうなリーダー　１人	(+)	たんのうなリーダー　１人	(+)
意欲	自主的設立 やる気十分	(+)	自主的設立 やる気十分	(+)	自主的設立 やる気十分	(+)	自主的設立 やる気十分	(+)

注）(+)…経営にとってプラスになっていること。
(−)…経営にとってマイナスになっていること。

4 ま と め

林業協業経営を成功させるには、作業場や施設等を１か所に集めること。出役の報酬は有償にし、少なくとも年度内には支払いをすること。協業は、利益の出やすい種類のものに限定すること。自己資金を主体とした経営を行なうこと。徹底した責任分担制を取ること。技術にたんのうなリーダーを加えること。自主的な協業体制を行政上作ってやること等が必要である。